

[講演要旨]

北海道と周辺の歴史地震史料：安永八年，九年(1780年)得撫(ウルップ)島沖地震

中西一郎 (京都大学 理学部 地球物理学教室)

千島列島得撫島沖で 1780 年に発生した地震に関する文献・史料を比較した。この地震に関する情報(震源・被害等)が書かれた著書，論文，史料集，史料を表1に示す。ロシア史料の编者・著者をカタカナで示した。露暦はユリウス暦であり，対応する和暦を括弧内に示した。

地震は 1780 年 1 月 19 日に始まり，6 月 29 日に津波を伴った本震が発生したと考えられる。また，『維新前件名別北海道略年譜稿』，『北海道史』，『休明光記』の記述はこの地震に関する和文史料が存在する可能性を示している。

表1 史料等，西暦日，和暦日，備考(マグニチュード，史料の特徴，他)

史料(発行年)	西暦日	和暦日	備考
宇佐美(2003)	1780年5月31日	安永9年4月28日	M7.0, 津波あり.
宇津(2001)	1780年5月31日	安永9年4月28日	宇佐美(1996)による
宇津(1968)	1780年	安永9年4月	M7.0, 理科年表による
N.V.コンドルスカヤ・ N.V.シェバリン 地震カタログ(1977)	1780年1月19日 1780年6月29日	(安永8年12月13日) (安永9年5月26日)	(M7.0) (M7.5), 津波 宇津(1968)を引用
新収日本地震史料 第三卷(1983)	1780年	安永9年4月	津波あり 掲載史料なし
増訂大日本地震史料 第二卷(1941)	1780年	安永9年4月	津波あり 一次史料の掲載なし
維新前件名別北海道 略年譜稿(佐藤, 1940)	1779年 1779年 1780年	安永8年12月12日 安永8年12月12日 安永9年4月	津波あり 津波あり 津波あり
北海道史 第一 (1918)	1780年	安永9年4月	津波あり
休明光記(羽太正養, 1807) 卷之一 ○蝦夷 地總論の事		安永9年	箱館奉行(1799年~ 1807年)の記録 津波あり
A.S. ポロンスキー (1871)(千島誌, 榎 本武揚・他訳, 1875)	1780年1月8日(露暦) 大地震始まる 1780年6月18日(露 暦) 最烈	(安永8年12月13日) (安永9年5月26日)	地理学協会の雑誌に書 かれた「論文」 海水高6サージェン (約12.8m)
新収日本地震史料 第三卷(1983) ○御日記(江戸)津軽藩 ○石川日記 八王子	1780年5月31日	安永9年4月28日 安永9年4月28日 安永9年4月28日	ウルップ島沖地震との 関連は不明 申下刻少地震 七時半時雨ぢしん
R.V. マカロヴァ編集 ○No.63 (1779.8.27 ~1780.9.17) I.M. アンチーピン ○No.64 (1780.9.20) I.M. アンチーピン	1780年1月8日(露暦) 1780年6月18日(露 暦) 深夜明けがた近く 1780年1月8日(露暦) 12時頃 1780年6月18日(露 暦) 深夜明けがた近く	(安永8年12月13日) (安永9年5月26日) (安永8年12月13日) (安永9年5月26日)	1989年出版の史料集 遠征日誌 約5, 6サージェンの 高い大波 アンチーピンからボリ シェレツク政庁への上 申書